

大カブ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早めに 播種までに30日以上おく ※ラクトバチルス [®] の添加により、土中の堆肥・有機物は未熟状態から醗酵状態に変わり、カブの品質を良くする カブの作付け前に堆肥を投入できるが、30日以上(なるべく60日)間隔をおく ※右記を散布して、深耕	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥2トン(なるべく多く) ※完熟堆肥なら、安全だがエネルギーに乏しいので、4トン。 ※堆肥を投入しない場合は米ヌカ60~120kg。 ●ラクトバチルス600g →堆肥を安全に土中醗酵させ、水分変動の少ない土壌にする。 ※土壌を表層から深層まで均一にする。 ※チッソ等の肥料はムラなく持続的に効くようになる。 ●硫安100kg ※砂地で堆肥が乏しい場合のみ、硫酸カリ20kg追加。 ※もし通常の複合肥料を使う場合は、チッソ成分で20kg程度。 ●畑の大将<青>60kg(酸性土壌なら80~100kg) →カルシウム栄養を豊富に供給して、ス入り防止。 ※土壌pHは表層から深さ40cmまで均一となり、pH:6.0~6.5の範囲(高くても7.0迄)となるように調節する。 5.5以下になると根コブ病のおそれがある。(後半注意) ※カルシウムの施用は地力作り時にしておく、土壌深層までカルシウム豊富でpH適正となり、大きくキレイなカブが出来る。 (整地後、ウネ上への散布でもOK)
	播種5日前頃に、 ウネ上に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●マンゾク・粒状30~60kg →初期の発根・発芽を揃え、根を強く伸ばし、生育を強く進める。 特に連作畑や、根コブ病などが心配な畑の対策に。 (なるべくアブラナ科の連作を避けること)
播種時	播種の前後の灌水時	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液程度を十分に灌水(散水) ※直根を一斉に強く伸ばし、土壌病害・連作障害にも強くする。
第1回 間引き後	播種後10日頃(本葉出始め) に第1回間引き その後、ウネ中央を軽く中耕(除草)。この時	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液を葉上から灌水(散水) →根を伸ばし 生長促進。 ※特に芽の伸びが悪い部分には シッカリ染み込ませる。 ※この時はチッソ肥料を施さないこと。もし肥切れならばアミノ酸液を500倍で葉上から散布。
本立て後の 追肥	本葉4~5枚で第2回間引き。 播種後30日頃、本葉7~8枚で第3回間引き=本立て。 ウネ肩を中耕・土寄せ。この後に…	<p>中耕・土寄せ時にはチッソ等の肥料を施さない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍を葉上から散布またはマンゾク・粒状20kgを土寄せ時に散布して、根を強く動かすのが大事。 <p>土寄せ後5日ほどして、根が伸びているのを確認してから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●硫安20kg(ただし土壌EC:3.0あれば不要) ※硫安は30kgまで。状態により畑の大将<青>併用。
追肥	播種後45日頃 (収穫45日前頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安40kg(品質向上のため硝酸は使わない) ●畑の大将<青>30~40kg →肉質を良くし、過熟防止。 ※ウネ肩の下部に、同時に散布する。
葉面散布 (適宜)	播種後45日頃 (収穫45日前頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲<Ca液>500倍を葉面散布 →転流・充実促進。 ※チッソ過多を抑え、軟腐・黒斑細菌・べと病も抑える。

【品種】聖護院カブ系 【主な用途】千枚漬け加工用 【作型】秋播き・秋冬穫り露地栽培、夏播き寒冷紗栽培(冷涼地)